

第2回アドバイザーボード 議論の要旨



開催日時：2023年5月19日（金）15:00～18:00

会場：日本OTC医薬品協会 第一会議室

*五十音順（敬称略）

参加者：公益社団法人 日本薬剤師会 常務理事 岩月 進

公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事 宇佐美 伸治

健康保険組合連合会 参与 幸野 庄司

株式会社日経BP 副編集長 河野 紀子

一般社団法人 日本チェーンドラッグストア協会 理事 平野 健二

聖路加国際大学 教授 中山 和弘

公益社団法人 日本医師会 常任理事 宮川 政昭

認定NPO法人 ささえあい医療人権センター COML理事長 山口 育子

日本OTC医薬品協会 上原会長、杉本副会長、ニクヒレッシュ・カラ副会長、他
WEB参加（吉本副会長、伊部副会長、吉田副会長）

主な内容：日本OTC医薬品協会からの提案に基づき議論 *提案内容は「添付資料」参照

- 1) ヘルスリテラシー向上 ~健康教育支援とその環境整備に向けて~
- 2) 生活者に向けた新たなOTC医薬品活用の方策
- 3) OTC医薬品情報提供のあり方について

第2回アドバイザリーボードは初めて全委員が一堂に会して議論



アドバイザリーボード委員



協会からの提案者
(事業活動戦略会議委員)



議 題：ヘルスリテラシー向上 ～健康教育支援とその環境整備に向けて～

■委員からの発言（要約）

- ・小学生には教科書に記載の健康三原則がなぜ重要か、自然治癒力があることを覚えることが重要。
- ・その上で、教科書で不足する「適正に薬を使用することの説明や意義」を現場で話すことも必要。
- ・情報の評価、信頼性に関する情報見分け方や自分で判断できる力（リテラシー）を養うことも重要で、親世代(成人)と同時に進めていく必要がある。
- ・高校生には、自分の健康をどう守るか、国民皆保険の維持のために何をすべきか、上手な医療のかかり方について考えさせる教育も必要になる。
- ・これらの課題を短期・長期でどう対処すべきか対策の検討が必要。



山口委員



宮川委員

■今後の対応（方向性）

- ・短期、長期で取組む課題を整理し、教育現場の実情も加味しながら教育担当者（教諭、養護教諭、学校薬剤師等）へ必要な情報支援を行う。



提案者:久米 裕康
(事業活動戦略会議委員)



中山委員



幸野委員

議 題：生活者にむけた新たなO T C医薬品活用の方策

写真と発言内容は
直接関係ありません

■委員からの発言（要約）

- ・データの記録は誰が取るのか、またデータ数値の意味はどう伝えるべきなのか、生活者にわかるようどう提示するのかが必要となる。
- ・生活者のリテラシーが向上し、セルフケアに到達しても、すぐ医療受診になっているので、セルフケアの次のセルフメディケーションへの環境づくりをO T C協会も提案していくことが必要。
- ・生活習慣病だけが目的ではない。プロの責任において積み重ねていき、仕組みを段階的に作っていけば良い。業界が潤うようなことだけ考えていてはダメ。組み立て方を良く考えて欲しい。
- ・チャート図で矢印を上にあげていく人、これは誰なのか。誰が責任を負うのか。また、上にあげるだけでなく循環する仕組みを考えておくことも大切。



岩月委員



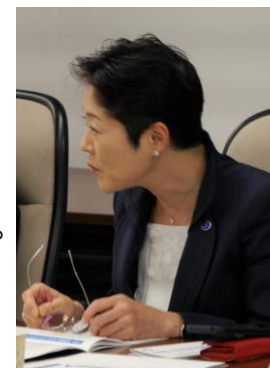
宮川委員

■今後の対応（方向性）



提案者:山本 雅俊
(事業活動戦略会議座長)

- ・委員の意見を反映し、今後、提案、発信していけるようにする。6月の事業活動戦略会議で議論を深め、ブラッシュアップして、次回のアドバイザリーボードで正式提案を行う。
- ・医師判断の領域と指摘されていることを受けて、役割分担やセルフメディケーションの領域を明確化し、今後の提案に反映していく



山口委員

議 題：OTC医薬品情報提供のあり方について

写真と発言内容は
直接関係ありません

■委員からの発言（要約）

- ・協会作成のアプリの新規ダウンロード数を増やすことは労力もかかるし非常にハードルが高い。
既にドラッグストアの店頭ではID-POS等がかなり普及しているので、現存するアプリとの連携をどのようにするか考えるべき。
但し、連携できたとしても、OTC医薬品の場合、購入者＝服用者とは限らない問題点が存在する。
- ・アプリ利用をより高めるため、OTC医薬品の安全性チェックの充実、飲み合わせへの対応等のPHR*が必要である。また、協会によるアプリ推進が、OTC医薬品への誘導と思われないう、医療機関との連携も含め、総合的サイトとなるような工夫が必要と思う。例えば、厚労省とコラボレーションするなど。



宇佐美委員



河野委員

■今後の対応（方向性）



提案者:川庄尚
(事業活動戦略会議委員)

- ・OTC 医薬品の関連情報共通検索システムによる製品情報など、OTC 医薬品に関する情報関連ポータルサイトの構築を進めるとともに、セルフケア・セルフメディケーション推進に向けた相互連携のためのプラットフォームの検討を進める。



平野委員

* PHR（パーソナルヘルスレコード）：個人の健康情報記録

添付資料

【提案書】

- 1) ヘルスリテラシー向上 ～健康教育支援とその環境整備に向けて～
- 2) 生活者にむけた新たなOTC医薬品活用の方策
- 3) OTC医薬品情報提供のあり方について

1) ヘルスリテラシー向上

～ 健康教育支援とその環境整備に向けて ～

Agenda

1. 目的

2. 現状と課題

- 1) 教育現場の現状
- 2) 現状のレビュー、問題意識

3. 目標の考え方

4. 活動の方向性、論点及び課題

- 1) 健康教育資材の提供と活用
 - ・教育現場（親御さんを含む）へのアプローチ
- 2) 関係機関や団体との連携

5. Appendix

1. 目的

「ヘルスリテラシー教育(*)のできる環境整備」の支援

教育現場で健康三原則（栄養・睡眠・運動）を更に進め、定着させていくための支援を実施する → 教育現場で自走できる環境整備を支援

そのために・・・

まずは健康三原則のレビューを行ない、その課題解決に向けた対応をアカデミア、教育機関や関係団体と連携の上、支援していく。

その取組みの中で子供の成長過程に合わせた「ヘルスリテラシー教育」のできる環境を整えていく。

* 小学校低学年から計画的に、栄養・運動・睡眠が成長に重要であること、自分の体調を管理するための情報収集、意思決定等を身につける教育。

2 現状と問題意識

2 - 1) 教育現場の現状

① 小学校教育におけるヘルスリテラシーに関する学習内容

→ 小学校では保健体育・家庭科で**健康三原則**を学習

保健領域の時間
3～4学年：2年間で 8単位
5～6学年：2年間で16単位
※1単位：45分

小学校3～4年生 (学習指導要領より)

(保健体育)

- 健康な生活について理解する。
 - －健康状態は主体の要因や周囲の環境要因がかかわっていることを理解する。
 - －**運動、食事、休養及び睡眠**の調和がとれた生活、体の清潔を保つことが必要。
- 体の発育・発達について理解する。
 - －**発育・発達には適切な運動、食事、休養及び睡眠**が必要

小学校5～6年生

(家庭科)

●食事の役割

食事の役割がわかり、日常の食事の大切さと食事の仕方について理解する。

②中学・高校教育におけるヘルスリテラシーに関わる学習内容

→中学・高校の学習指導要項でも**健康三原則**を学習

保健領域の時間

中学校：3年間で48単位

高等学校：2年間で70単位

※1単位：50分

中学1～3年生（学習指導要領より）

（保健体育）

●健康な生活と疾病の予防について、以下の内容を身に付ける。

－健康な生活と疾病の予防について理解する。

- ・健康の維持増進には**年齢、生活環境に応じた運動、食事、休養及び睡眠**の調和のとれた生活を続ける必要があること（食育の観点を含む）。

（技術・家庭科）

●食事の役割と中学生の栄養の特徴

(ア)生活の中で**食事が果たす役割**について理解すること

(イ)**中学生に必要な栄養の特徴**が分かり、健康によい食生活について理解する。

高等学校1～2年生

（保健）

●生活習慣病などの予防と回復

健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、**運動、食事、休養及び睡眠**の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であること。

（食育を含む）

②中学・高校教育におけるヘルスリテラシーに関わる学習内容

→中学・高校の学習指導要項で**薬物乱用・くすり教育**を学習

保健領域の時間

中学校：3年間で48単位

高等学校：2年間で70単位

※1単位：50分

中学1～3年生（保健体育）（学習指導要領より）

●健康な生活と疾病の予防について、以下の内容を身に付ける。

- －健康の保持増進や生活習慣病などを予防するためには、適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要であること、生活行動と健康に関する内容として喫煙、飲酒、薬物乱用を取り上げ、これらと健康との関係を理解できるようにすること
- －健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や社会の取組が重要であり、保健・医療機関を有効に利用することが必要であること。また、医薬品は、正しく使用する
- －医薬品には、主作用と副作用があること及び、使用回数、使用時間、使用量などの使用方法があり、正しく使用する必要があることについて理解できるようにする
- －薬物乱用については、覚醒剤や大麻を取り上げ、摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることを理解できるようにする

②中学・高校教育におけるヘルスリテラシーに関わる学習内容

→中学・高校の学習指導要項で**薬物乱用・くすり教育**を学習

保健領域の時間

中学校：3年間で48単位

高等学校：2年間で70単位

※1単位：50分

高等学校1～2年生（保 健）

（学習指導要領より）

●医薬品の制度とその活用

- ・ 医薬品は、**医療用医薬品**、**要指導医薬品**、**一般用医薬品**の三つに大別され、**承認制度**によってその**有効性**や**安全性**が**審査**されており、**販売に規制**が設けられていることについて理解できるようにする。
- ・ 疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、**使用法に関する注意**を守り、**正しく使うことが必要**であることを理解できるようにする。
- ・ **副作用**については、**予期できるもの**と、**予期することが困難なもの**とがあることにも**触れる**ようにする。

●薬物乱用と健康

- ・ **薬物**(麻薬、覚醒剤、大麻、危険ドラッグ等)の**乱用**は、**心身の健康**、**社会の安全**などに対して**深刻な影響**を及ぼすことから、決して行ってはならないことを理解させる。
- ・ **薬物乱用防止**には、**正しい知識の普及**、**健全な価値観**や**規範意識**の育成、**法的な規制**や**行政的な対応**など**社会環境への対策**が必要であることを理解させる。
- ・ **薬物乱用の開始**の背景には、**自分の体を大切に**する**気持ち**や**社会の規範**を守る意識の**低下**、**周囲の人々からの誘い**、**断りにくい人間関係**、**インターネットを含む薬物を手に入れやすい環境**などがあることにも**適宜触れる**ようにする

②中学・高校教育におけるヘルスリテラシーに関わる学習内容

→高校の学習指導要項で健康に関する**意思決定・行動選択**を学習

保健領域の時間

中学校：3年間で48単位

高等学校：2年間で70単位

※1単位：50分

中学1～3年生（保健体育）

●教科の目的

- －現在及び将来の生活において健康に関する課題に対して、**科学的な思考と正しい判断の下に適切な意思決定・行動選択を行い**，適切に実践していくための思考力，判断力，表現力等が含まれている。

高等学校1～2年生（保健）

●教科の目標

- －現在及び将来の生活において健康に関する課題に対して、**科学的な思考と正しい判断の下に適切な意思決定・行動選択を行い**，適切に実践していくための思考力，判断力，表現力等が含まれている

●健康の保持増進のための適切な意思決定や行動選択と環境づくり

- －健康を保持増進するには、ヘルスプロモーションの考え方にに基づき、**適切な意思決定や行動選択により、疾病等のリスクを軽減することを含め、自らの健康を適切に管理することが必要であるとともに、環境づくりが重要であることを理解できるようにする**

（学習指導要領より）

2 – (3) 小学校・中学・高校教育における健康三原則とくすり教育のレビュー

各企業で実施した経験等から、現場の教育等についてヒアリングを行ってみると、以下の問題点が見受けられた。

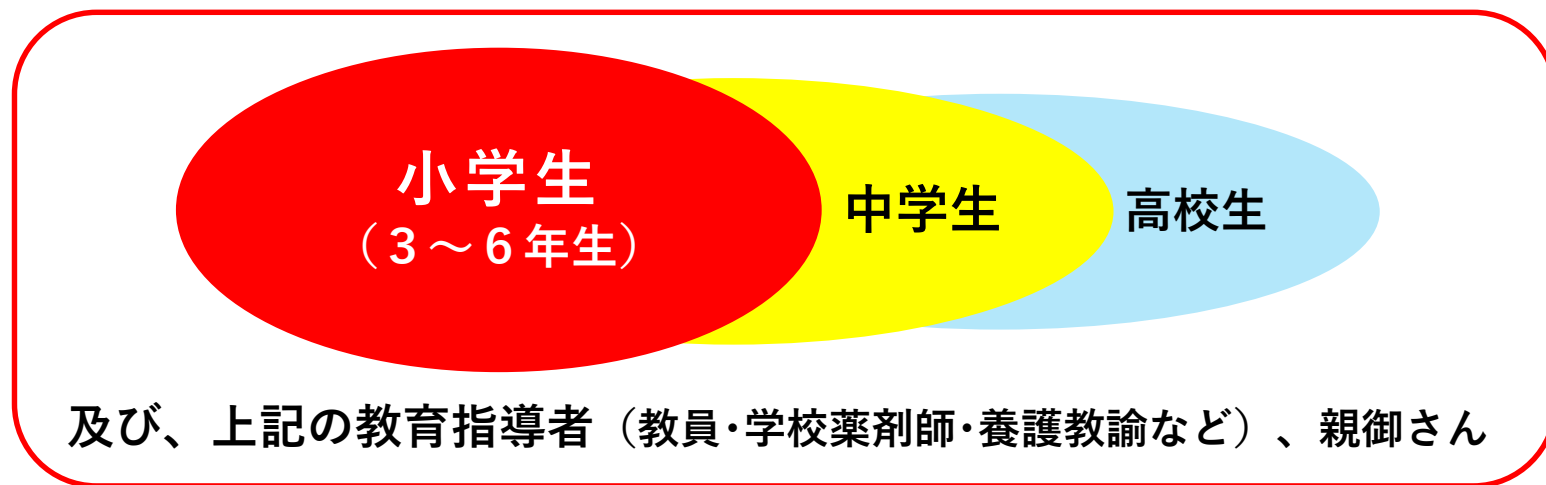
ターゲット	見受けられる問題点	課題
小学生 (3～6年生)	<ul style="list-style-type: none"> ・全教科の教育の中での優先度が低い ・十分な教育時間が確保できていない ・病気や怪我の時は安易に医療機関を頼る傾向があり、<u>日常の子供の健康管理に対する親の意識が低い</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員へのわかりやすい情報の提供と教育資材の提供 ・教育制度への働きかけ（時間確保） ・親への意識改革
中学・高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・教育時間が確保できていない ・教材内容が不十分 ・SNS等での情報の氾濫（誤った健康や薬情報の氾濫） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度への働きかけ（時間確保） ・教員へのわかりやすい情報の提供と教育資材の提供 ・健康や薬に関する正確な情報の提供

* 随時に教育関係者等から調査を行い、問題点・課題の整理を行う予定。

3. 目標の考え方

健康三原則の充実と、体調維持に必要な情報を小学3年生～6年生を中心に、（中・高校生も含む）提供し、理解を深めるとともに、これらの子供を持つ親御さんの理解を深めること。

【ターゲット】



そのため、教育指導者（教員・学校薬剤師・養護教諭・保健師など）へ情報提供を行う。

4. 活動の方向性（現時点）・・・ 論点及び課題

1) 健康教育資材の提供と活用

□ 学校薬剤師の支援を軸に進める

- ・日頃からOTC医薬品を取り扱い、学校とも接点のある学校薬剤師を中心に連携し、情報提供を行う。
- ・教育指導者（教員・学校薬剤師・養護教諭など）の研修の場を借りて、支援や情報提供の強化を行う。また、将来これらの職業に就く学生への情報共有の場を検討する。
- ・こどもを通じて、家庭へ情報伝達できる方策（保健だより等の活用）を検討する。

2) 関係機関や団体との連携

□ 教育機関や関係団体、専門家との連携

- ・くすりの適正使用協議会（委員会等への出席と情報共有）、日本チェーンドラッグストア協会（地域住民への情報提供などを協議）、学校保健会（意見交換等から開始）等の連携を検討する。
- ・学校薬剤師会などの健康教育に携わる指導者の活動の場を広げるために、各都道府県の教育委員会、校長会など人脈開拓から着手する。
- ・健康教育の効果を検証できる方策を検討する。

2) 健康・くすり教育資材の提供と活用

中・高校生向けには「健康・くすり教育資材」を提供し、教育現場での活用を支援。
現場の教員や指導者がスムーズに説明できるように、説明書も作成。

→2023年4月4日OTC薬協Webで公開済 → **これから活用促進!**

内容：会員各社が共通して使用できる薬育教育資材
7つの章で説明用の教育資材を作成
(ppt画面+読み上げ原稿、使用マニュアル、指導者用マニュアル)


章	タイトル	内容
第1章	健康でいるために	健康三原則 など
第2章	薬とは	医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の三つに大別、販売に規制が設けられている
第3章	薬の剤形と特徴	個々の医薬品の特性を理解
第4章	薬を正しく使うには	使用法に関する注意を守り、正しく使う
第5章	薬の副作用と副作用	副作用は予期できるものと予期することが困難なものがある
第6章	薬の規制	承認制度によってその有効性や安全性が審査
第7章	ヘルスリテラシーとセルフメディケーション	セルフメディケーション、ヘルスリテラシー等

健康・くすり教育資料の利用状況（データのダウンロード実績）

期間：2023年4月4日～5月12日

人数：51名 ダウンロード数：54回（複数回を含む）

内訳：学校薬剤師	17名(33.3%)	} 33名(64.7%)
薬剤師（薬局・病院）	6名(11.8%)	
教員（薬科大学・高校等）	10名(19.6%)	
製薬企業	7名(13.7%)	
その他（医薬品卸等）	11名(21.6%)	



33名の使用目的

- 24名(72.7%)：くすり教育、授業などで活用・参考に。
- 3名(9.1%)：市民講座、健康イベントの参考に。
- 2名(6.1%)：薬物乱用防止講座の資料として。
- 1名(3.0%)：薬剤師の仕事の説明に（中学）
- 3名(9.1%)：その他（社会活動、閲覧のみ等）

学校薬剤師やくすり教育に携わる教員などの利用が多い。
更に活用を促進する為、広報活動を工夫し、活用される方策を検討する。

本日のご意見を承りたい内容

- 健康三原則の教育現場でのさらなる充実について
- 子供たちへの浸透の状況について

その上でOTC薬協としての取り組み・くすり教育も含め貢献できること

これらについて、ご意見をお伺いしたいと存じます

Appendix

組織：学校保健会

目的：学校保健の向上発展を目的として設立された団体。

子どもたちの健康に関する調査・研究、それによって得た情報の提供、新たな問題への対策など、学校保健に関する様々な活動を行っている。

日本学校保健会の構成団体

本会構成団体

(順不同)

都道府県・指定都市学校保健（連合）会

公益社団法人日本医師会

一般社団法人日本学校歯科医会

公益社団法人日本薬剤師会

公益社団法人日本眼科医会

一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会

全国連合小学校長会

全日本中学校長会

全国高等学校長協会

全国学校保健主事会

全国養護教諭連絡協議会

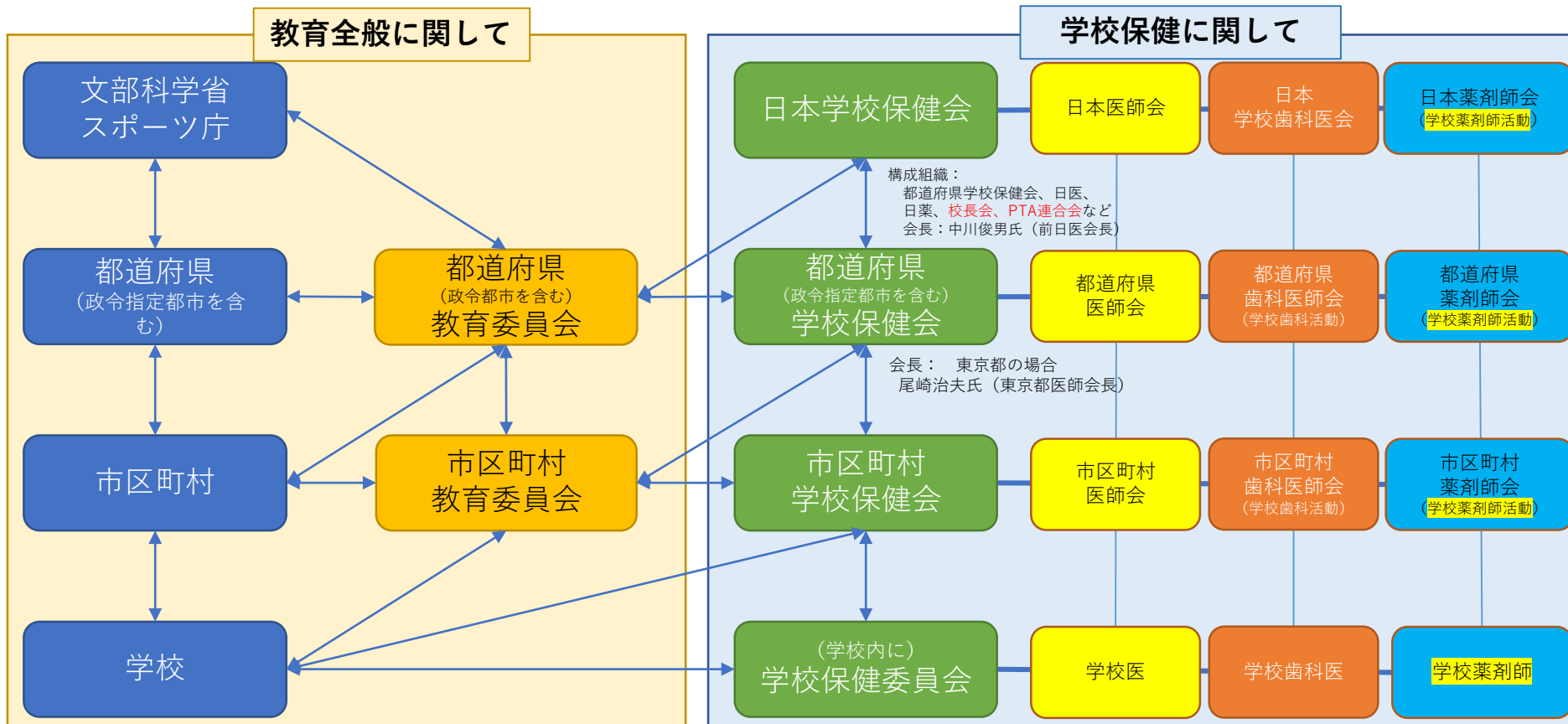
公益社団法人全国学校栄養士協議会

公益社団法人日本PTA全国協議会

一般社団法人全国高等学校PTA連合会

学校保健に係る組織

学校保健には文部科学省、スポーツ庁だけでなく、教育委員会、自治体の教育関連部局、学校保健会など多くの組織が連携。



令和3年度における薬物乱用防止教室開催状況調査

全区分	調査回答校数	開催校数	開催率（R3年）	前回調査（H30年）
合 計	33,713	25,291	75.0%	83.2%
小学校段階	19,064	13,476	70.7%	78.7%
小学校	18,915	13,373	70.7%	78.6%
義務教育学校	149	103	69.1%	85.5%
中学校段階	10,022	8,210	81.9%	90.6%
中学校	9,821	8,056	82.0%	90.6%
義務教育学校	149	125	83.9%	96.4%
中等教育学校	52	29	55.8%	71.2%
高等学校段階	4,626	3,605	77.9%	85.8%
高等学校	4,575	3,570	78.0%	85.8%
中等教育学校	51	35	68.6%	82.0%

https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/20220627-mxt_ope01-1.pdf

学校教育（学習指導要領の内容）

健康三原則
くすり教育

1989年 高等学校で「くすり教育」が開始
2008～2009年 中学では医薬品に関する事項が新規に追加、
高等学校では医薬品に関する事項が改訂
下記は2020～2022年 改訂された学習指導要領の内容

★薬物乱用（喫煙、飲酒、薬物）防止教育を含む

- 小学校3年**
- 健康な生活について理解する。
 - 一健康状態は主体の要因や周囲の環境要因がかかわっていることを理解する。
 - 一運動、食事、休養及び睡眠の調和がとれた生活、
- 小学校4年**
- 体の発育・発達について
 - 発育・発達には適切な運動、食事、休養及び睡眠が必要
- 小学校5年**
- 心の健康について
 - けがの防止について
- 小学校6年**
- 病気の予防について ★

- 中学1年**
- 健康な生活と疾病の予防について、
 - 1.健康の成り立ちと疾病の発生要因（かぜ、熱中症）
 - 2.運動と健康
 - 3.食生活と健康
 - 4.休養及び睡眠と健康／調和のとれた生活
 - 心身の機能の発達と心の健康について
- 中学2年**
- 健康な生活と疾病の予防について
 - 1.生活習慣病の原因
 - 2.生活習慣病の予防
 - 3.がんの仕組みとその原因
 - 4.がんの予防と早期発見
 - 傷害の防止について（交通事故、自然災害）
- 中学3年**
- 健康な生活と疾病の予防について
 - 健康の保持増進や疾病の予防のためには、個人や
 - 社会の取り組みが重要であり、保健・医療機関を有効に利用することは必要。
 - 医薬品は正しく使用すること。
 - 感染症の予防
 - 1.感染症とは
 - 2.感染症の予防
 - 3.感染症の予防
 - 4.エイズの予防
 - 健康と環境について

- 高等学校 2年間**
- 第1単元 現代社会と健康 19項目**
- [1]健康の考え方と成り立ち
 - [2]私たちの健康のすがた
 - [3]健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり（悪習慣をやめる作戦）
 - [4]生活習慣病とその予防
 - [5]食事と健康（食生活改善と体型）
 - [6]運動・休養と健康
 - [7]喫煙と健康
 - [8]飲酒と健康（イッキ飲みを防ごう）
 - [9]薬物乱用と健康（薬物等に手を出さないために）★
 - [10]感染症とその予防（新型インフルエンザに備えよう）
 - [11]感染症・エイズとその予防
 - [12]欲求と適応機制
 - [13]心身の相関とストレス
 - [14]心の健康のために（ストレスに対処しよう）
 - [15]交通事故の現状と要因
 - [16]交通事故を防ぐために（安全な生活のために）
 - [17]応急手当の意義とその基本
 - [18]日常的な応急手当
 - [19]心肺蘇生の原理とおこなう方（実習を含む）
- 第2単元 生涯を通じる健康 10項目**
- [1]思春期と健康
 - [2]性への関心・欲求と性行動
 - [3]妊娠・出産と健康
 - [4]避妊法と人工妊娠中絶
 - [5]結婚生活と健康
 - [6]中高年期と健康
 - [7]医薬品とその活用
 - [8]医療サービスとその活用
 - [9]保健サービスとその活用
 - [10]さまざまな保健活動や対策
- 第3単元 社会生活と健康 7項目**
- [1]大気汚染と健康
 - [2]水質汚濁、土壌汚染と健康
 - [3]環境汚染を防ぐ取り組み
 - [4]ごみの処理と上下水道の整備
 - [5]食品の安全を守る活動
 - [6]働くことと健康
 - [7]働く人の健康づくり

小学校における
くすり教育がない
(発展形での教科書に記載)

出典：文部科学省 学習指導要領から抜粋

成功事例：健康の三原則～薬物乱用防止への展開

横浜市都筑区内 公立小学校 学校薬剤師が薬物乱用防止教室を実施

講義内容：

薬物乱用防止教室の本題に入る前に、出来るだけ薬に頼らず、みんなの健康を保ち自然治癒力を高める事が大事。それでも体調が悪い時には薬の力を借りよう。その薬には使い方にルールがあってそのルールを守らないと薬物乱用になる。
(OTC薬協作成資料活用)



子どもたちの感想：なぜ健康に過ごす事が大事なのかわかった。

くすりを使うときはどういとき？



講義を行った学校薬剤師の感想：

何年も薬物乱用防止教室を試行錯誤でやってきたが、今年の流れが一番自分が伝えたい事がまとまり流れ良く出来たかな、と満足。それもOTC薬協が講師を務めた研修会とスライドのおかげ。何かモヤモヤしていたのが、あのスライドでピンと来て考えがまとまりました。

薬物乱用とは、……

- 薬物乱用とは、ルールに反した「行い」に対する言葉
- 社会規範から逸脱した目的や方法で、薬物を自ら使用すること。
 - 覚せい剤、麻薬、有機溶剤の吸引、未成年者の飲酒・喫煙、オバドーズなどはルールに反した行い。

ルールとは何か？

医薬品	酒気やケガの時に、効能・効果の範囲以内で、用法・用量に従い、治療に使用	どんな時に使うのか 用法など簡単な説明
乱用	病気やケガでない時に、遊びや快楽のために使用	

小学生への健康教育を強化する理由：

(文献調査、学校教育実施者のヒアリング結果より)

- 小学生時の発達別教育の有無によって、中学生時における薬の適正使用等の理解度が異なる傾向がある。
- 低学年のうちから薬学教育を実施することで薬に対する理解が高まる。

出典：小学生時の発達段階別薬育が中学生の医薬品への理解と適正使用に与える影響の検討
(社会薬学 Vol.33 No.1 2014) 慶應義塾大学薬学部 福島紀子名誉教授

■ 関係団体に意見聴取等の実施、特にくすり教育が拡大しない原因

くすり教育を実施している方の悩み

- ・学校でのくすり教育が仕組化されていない（自分たちだけで活動範囲を広げにくい）
- ・学校保健に関しステークホルダーが多い、
- ・小学校の指導要領にくすり教育が入っていない
- ・未実施の小学校で、くすり教育の実施は学校長や教育委員会などの理解が必要で、ハードルが高い、ボトムアップではなかなか難しい。

薬育授業の経験がない、少ない方の悩み

- (一歩が踏み出せない学校薬剤師)
- ・薬育資材（小学生向け）が少ない。
- ・教え方がわからない。
- ・学習のポイントや周辺情報を知りたい。
- ・本音はプレゼンはやりたくない

参考：学校薬剤師の役割：

- (学校保健安全法施行規則)
- ・学校保健計画、学校安全計画の立案に関与
- ・環境衛生検査に従事(プールの水質管理、
- ・環境衛生の維持・管理への指導・助言
- ・健康相談、保健指導に従事
- ・校内の医薬品、毒物、劇物、用具等の管理

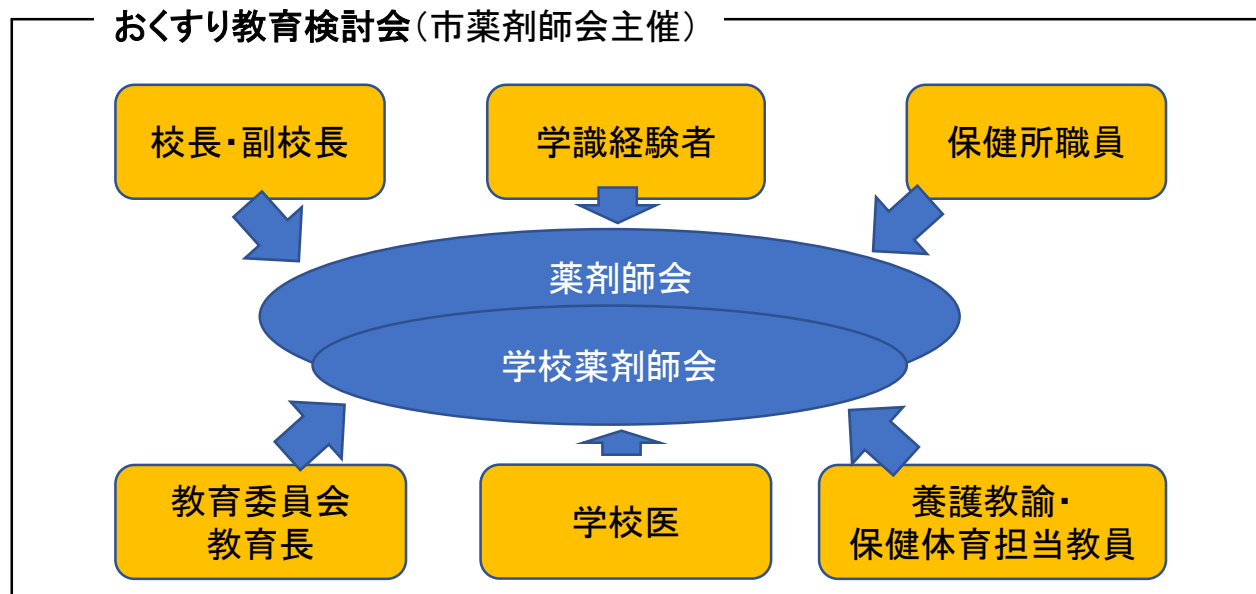
成功事例:くすり教育を全校で実施している都市

(人口 約20万人、小学校19校、中学校8校)

学校薬剤師27名(一人一校を担当)

当初は1校から実施、20年かけて徐々に拡大し、全校での実施、組織化。

教育長:児童生徒から薬や薬物に関するトラブル報告はここ数年全く受けていない(文献記載)



出典:ヒアリング、ファルマシア Vol.52 No.8 2016 p761~763

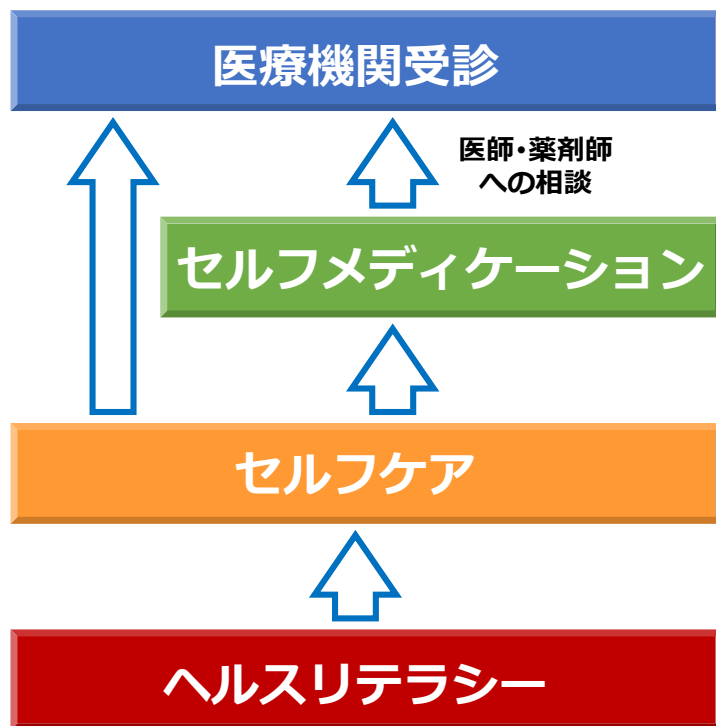
2) 生活者にむけた 新たなOTC医薬品活用の方策

第2回アドバイザリーボード会議

2023年5月19日

生活者によるOTC医薬品の活用について

◆生活者の健康維持・増進に向けたチャート図



◆OTC医薬品の提供への環境整備

社会にとって、必要な時、必要な人に適切な方法で医薬品が供給されることが必要なことである。特に今後働き世代が急速に減少し高齢者比率が高くなる日本においては、働き世代の手を借りずとも身体が動く壮年層や若年高齢者などは、自分の健康を自らが管理し、上手に医療にかかることがますます重要になってくる。そう考えると、**生活習慣病にならず、なっても状態を安定的に維持していくために、血圧や中性脂肪、尿酸値、血糖、骨密度など自覚症状がない生活習慣病関連の健康管理指標を安定させる医薬品をOTCとしても使えるようにし、生活者自らが自分で健康管理しやすい社会を構築していくことが必要と考える。**

現在、要指導医薬品は、生活者からみて取り扱っている薬局・販売店が少なく、購入できる時間が短い場合があり、さらに、スイッチ以降数年は市販後調査への協力を求められるため、非常に時間や手間を感じられている仕組みになっていることが問題である。また、効能効果や用法用量が医療用と異なる、例えば半量などがあげられ、わかりづらい、効かないのではないかとの声も協会や各メーカーには寄せられており、現状、期待通り国民が活用できている状況にはないと感じている。これは、**新しいOTCが必要な時に必要な人がアクセス出来ないという**ことであり、**要指導医薬品制度の在り方については規制強化だけでなく、然るべき改善も合わせて議論を進めるべきである。**

対面販売が維持されず、受診勧奨をどのように効果的に行うか、また、安易に販売される危険性等をインターネット販売の論点として挙げられているが、**適切な医薬品提供体制として、医療用医薬品で認められているオンライン服薬指導など、薬剤師のサポートのもと、より自らが健康管理しやすい体制・制度の整備は必要なことである。**

セルフモニタリング・チェック・メディケーションを活用した医療連携イメージ

ウェアラブルデバイスによる
「健康セルフモニタリング」



生活者



かかりつけ医による診療



薬局・ドラッグストア



検査キットによる「セルフチェック」・
OTC医薬品による「セルフメディケーション」

日常のモニタリングで異常があれば、薬剤師や登録販売者など専門家に相談の上「セルフチェック」を実施し、OTC医薬品を活用した「セルフメディケーション」や「受診勧奨」など必要な対応を取る。

電子おくすり手帳



電子おくすり手帳ではOTC医薬品DB化やウェアラブルデバイスとの連携も想定。

オンライン診療や健康相談
(健康保険組合サービス等を含む)



受診勧奨

セルフケア・セルフメディケーションの指導

PHRデータ
連携サーバ



セルフチェック対象候補

- ①健康管理 (便潜血、血糖値、コレステロール、中性脂肪、肝機能、骨密度 など)
- ②公衆衛生 (インフルエンザ単体、梅毒・クラミジア・淋病 など)

セルフメディケーション対象候補

- ①健康管理 (血糖値、コレステロール、中性脂肪、肝機能、骨密度 など)

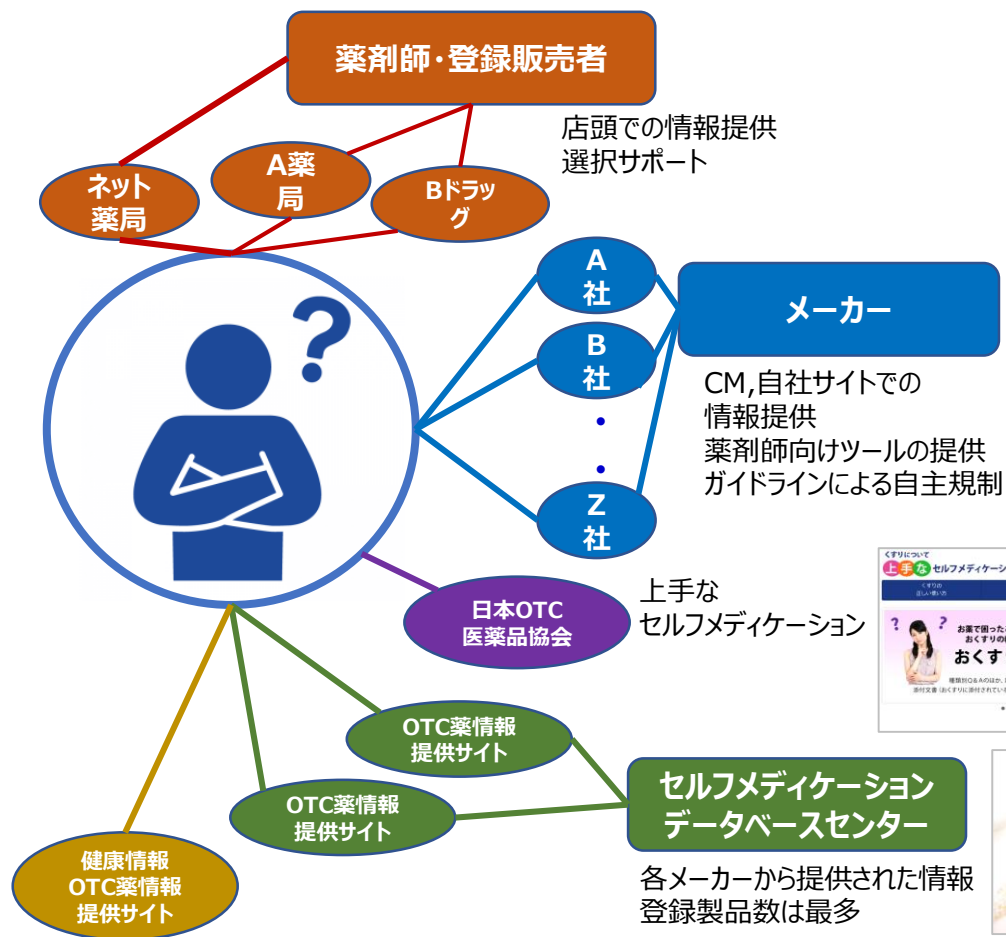
3) OTC医薬品情報提供のあり方について

第2回アドバイザリーボード会議

2023年5月19日

第1回アドバイザリー会議における委員の意見抜粋（OTC薬の情報提供、薬剤師・登録販売者サポート）

- 協会からリスクコミュニケーションなど国民に情報発信ができているのだろうか
- 協会はリテラシーといっているのだが、的確な情報収集ができていないのではないか。 各社が情報を整えランクアップし、協会として発信すべきではないか。
- OTC医薬品を選択する際、長所短所などの情報が不足。活用しやすいしくみをつくってほしい。デジタル化などは必須。
- 医者に行くのかOTC薬にするのか、選べる力が必要だが、選ぶための情報、選択肢の長所短所の情報が不足している。比較検討できるようにすればよい。選択肢を示す = リテラシーである。
- 最前線でお薬をお渡しする登録販売者への教育のサポートはできているのだろうか



課題

- ・情報源が多岐にわたり、ほしい情報が入手しにくい
- ・薬の情報と、リスクや適正使用のための情報が同時に入手しにくい
- ・対応を選択するためのサポートが少ない
- ・正しい情報源がわかりにくい



協会サイトにて、薬の使い方について情報提供

上手なセルフメディケーション（一般向け）トップ	くすりの正しい使い方	
	おくすりQ&A	
	おくすりを使用する前に	新しい販売方法についてよくある質問
		妊娠・授乳時の諸注意
	おくすりの種類で選ぶ	解熱鎮痛・生理痛薬
		薬効別にQ&Aを掲載
	症状別アドバイス	
	春・夏・秋・冬 ～季節の症状	かぜ 他
	ちょっと気になる身体の症状	頭痛・発熱 他
	女性に多い悩み	冷え性 他
くすりの豆知識	カルシウム剤 他	
お客様相談室一覧		



(2020年版)

ハンドブックの内容を協会サイトで公開

セルフメディケーションのポイント
かかりつけの薬剤師をもちろ
新型コロナウイルス感染予防のために
こんなときはこんな薬
剤形ごとの特徴と使い方
説明書は使用前に必ず読みましょう
内服剤の正しい飲み方
注意したい薬の飲み合わせ、食べ合わせ
薬の正しい保管方法
子どもと薬
高齢者と薬
妊娠中、授乳中の女性と薬
薬の効き方
薬の主作用・副作用
ゆびさきセルフ測定室（検体測定室）のご案内
特集／子どもとくすり

参考

閲覧数の半数が生活者、 飲み合わせに関する情報の閲覧が最も多い

■生活者アクセス上位項目

	PV	訪問者
	23年2月	23年2月
全体 (㊦)	249,012	131,395
生活者 (GA)	124,238	98,147
会員 ^ハ -ジ ^ニ (想定)	124,774	33,248
生活者割合	50%	75%

■生活者アクセス上位項目

ページタイトル	訪問者	直帰率
注意したい薬の飲み合わせ、食べ合わせ 上手なセルフメディケーション OTC医薬品協会	44,500	94.3%
おくすりQ&A：膣カンジダ再発治療薬 日本OTC医薬品協会	9,873	95.5%
OTC医薬品とは？／くすりについて／日本OTC医薬品協会	8,348	89.0%
日本OTC医薬品協会	4,257	60.1%
内服剤の正しい飲み方 上手なセルフメディケーション OTC医薬品協会	3,170	92.6%
OTC医薬品の販売方法について／くすりについて／日本OTC医薬品協会	2,849	90.6%
新製品情報「オデキュアEX」 上手なセルフメディケーション OTC医薬品協会	2,809	94.0%
おくすりQ&A：目薬 日本OTC医薬品協会	2,643	94.7%
おくすりQ&A：睡眠改善薬 日本OTC医薬品協会	2,498	90.0%
おくすりQ&A：整腸薬 日本OTC医薬品協会	2,253	95.0%

■検索キーワード上位 (GoogleSearchConsole連携)

キーワード (GoogleSearchConsole連携)	当月			
	クリック数	表示回数	クリック率	平均順位
1 otc医薬品	1,949	6,535	29.82	1.00
2 薬 飲み合わせ	908	2,843	31.94	1.00
3 otc	893	7,971	11.20	1.31
4 飲み合わせの悪い薬	646	1,876	34.43	1.00
5 薬飲み合わせ	529	1,937	27.31	1.00
6 鼻炎薬と頭痛薬 一緒に飲んでも大丈夫	484	1,681	28.79	1.05
7 アストミン 飲み合わせ 禁忌	474	1,836	25.82	2.01
8 otc医薬品とは	437	1,765	24.76	1.46
9 カンジダ 薬	357	16,201	2.20	4.35
10 薬 違う種類 何時間あける	325	1,379	23.57	1.23
11 薬の飲み合わせチェック 市販薬	274	684	40.06	1.00
12 カンジダ 薬 翌日 出てきた	271	1,244	21.78	1.17
13 オロパタジン 飲み合わせ 禁忌	270	9,002	3.00	7.54
14 薬と飲んではいけない飲み物	250	2,183	11.45	2.28
15 トローチ 子供	214	951	22.50	1.04
16 オロパタジン 飲み合わせ 風邪薬	190	427	44.50	1.03
17 鼻炎薬 頭痛薬 一緒に飲む	188	532	35.34	1.00
18 薬の飲み合わせ	188	738	25.47	1.02
19 カンジダ 薬	187	11,004	1.70	4.28
20 薬の飲み合わせチェック	186	6,521	2.85	5.10
21 otcとは	170	1,643	10.35	2.03
22 薬 ヨーグルト	170	370	45.95	1.16
23 ロスバスタチン 飲み合わせ コーヒー	167	357	46.78	1.00
24 アレロック 飲み合わせ 禁忌	163	3,192	5.11	4.13
25 ペボタスチンベンシル酸塩 飲み合わせ	153	1,675	9.13	4.49
26 カンジダ 自然治癒 何日	147	3,376	4.35	1.11
27 胃薬 頭痛薬 併用	145	273	53.11	1.01

健康トラブルの対処や市販薬の選択方法について（調査）

参考

調査目的：生活者の健康トラブルの対処や市販薬の
選択方法についての実態を調査する。

調査期間：2023年3月8日～同年3月9日

調査方法：インターネットアンケートサービス QiQUMO

表1 回答者の割付 (名)

	男性	女性
20代	50	50
30代	50	50
40代	50	50
50代	50	50
60代	50	50
70歳以上	50	50
合計	300	300

表2 回答者の職業 (名)

会社勤務（一般社員）	162
会社勤務（管理職）	31
会社経営（経営者・役員）	12
公務員・教職員・非営利団体職員	27
派遣社員・契約社員	38
自営業（商工サービス）	24
農林漁業	1
専門職（弁護士・税理士等の法務経営の専門職）	0
専門職（医師等の医療関連の専門職）	12
パート・アルバイト	84
その他の職業	12
専業主婦・主夫	85
学生	15
無職	97
合計	600

健康トラブルの対処や市販薬の選択方法について①

参考

あなたの医療機関への受診状況について、お尋ねします。

Q1 現在、1週間～3か月に1度程度の頻度で、1年以上、定期的に病院や診療所に通院している病気がありますか。下記の中からお選びください。歯医者さんへの通院を除いてお答えください。（回答は1つ）（SA）

	回答数	%
全体	600	100
1 1年以上、5年未満、定期的に通院している病気がある。	102	17
2 5年以上、10年未満、定期的に通院している病気がある。	69	11.5
3 10年以上、定期的に通院している病気がある。	88	14.7
4 過去に1年以上定期的に通院していた病気があったが、現在は無い。	29	4.8
5 現在も過去においても、そのような病気はない。	312	52
非該当	0	0

Q2 前の質問以外の病気で、あなたの体調が悪くなった場合の対処方法として最も多いと思われるものを下記の中からお選びください。（回答は1つ）（SA）

	回答数	%
全体	600	100
1 病院や診療所受診する	314	52.3
2 薬局やドラッグストアで、処方せんなしで購入できる市販薬を使用して自分で対処する。	123	20.5
3 受診せず、市販薬も使用せず、十分な休養をとる。	72	12
4 特に何もせず、我慢して普段通り生活している。	91	15.2
5 その他(具体的に入力してください)	0	0
非該当	0	0

健康トラブルの対処や市販薬の選択方法について②

参考

Q3 体調が悪くなった場合の対処方法、体調を改善すること等を考えるにあたり、身体の不調に関する情報をどのような手段で入手していますか。下記の中から該当するものをお選びください。（複数回答可）（MA）

	回答数	%
全体	600	100
1 かかりつけの医師や診療してもらった医師からの説明	349	58.2
2 処方せんを調剤してもらった薬剤師からの説明	100	16.7
3 薬局やドラッグストアで市販薬を購入した際、薬剤師等から受けた説明	54	9
4 友人や家族からの情報	51	8.5
5 テレビやラジオの健康番組の情報	44	7.3
6 健康雑誌や新聞記事からの情報	18	3
7 インターネットで検索した健康情報	172	28.7
8 健康アプリ等からの情報	13	2.2
9 特に情報収集はしない	122	20.3
10 その他(具体的に入力してください)	2	0.3
非該当	0	0

30%弱の方がインターネットを利用しているが、信頼度は高くはない。信頼性の高い情報源が求められる

前の質問の中で、あなたが最も信頼できると考える情報をお選びください。

	回答数	%
全体	600	100
1 かかりつけの医師や診療してもらった医師からの説明	389	64.8
2 処方せんを調剤してもらった薬剤師からの説明	18	3
3 薬局やドラッグストアで市販薬を購入した際、薬剤師等から受けた説明	18	3
4 友人や家族からの情報	18	3
5 テレビやラジオの健康番組の情報	10	1.7
6 健康雑誌や新聞記事からの情報	3	0.5
7 インターネットで検索した健康情報	44	7.3
8 健康アプリ等からの情報	3	0.5
9 特に情報収集はしない	97	16.2
10 その他(具体的に入力してください)	0	0
非該当	0	0

Q4 あなたが薬局やドラッグストアで市販薬を購入するとき、どの薬を購入するかを決定するのに参考にする情報を下記の中からお選びください。（複数回答可）（MA）

	回答数	%
全体	600	100
1 テレビや雑誌のコマーシャル	91	15.2
2 製薬会社のホームページ等、インターネットに情報	79	13.2
3 薬局やドラッグストアの薬剤師等に相談して決める	201	33.5
4 薬のパッケージに記載された成分や注意を読んで	156	26
5 類似した複数の製品の配合成分や配合量、効能を比較する	56	9.3
6 友人や家族に相談して	51	8.5
7 自分自身が過去に使用した経験がある製品やブランド名で選ぶ	123	20.5
8 価格	84	14
9 その他(具体的に入力してください)	1	0.2
10 市販薬は購入しない	110	18.3
非該当	0	0

薬剤師に相談しての購入が最も多く、信頼度も高い。ネット情報の信頼度はTVと同程度

この中で、最も参考にする情報を下記の中からお選びください。

	回答数	%
全体	600	100
1 テレビや雑誌のコマーシャル	45	7.5
2 製薬会社のホームページ等、インターネットに情報	43	7.2
3 薬局やドラッグストアの薬剤師等に相談して決める	160	26.7
4 薬のパッケージに記載された成分や注意を読んで	80	13.3
5 類似した複数の製品の配合成分や配合量、効能を比較する	25	4.2
6 友人や家族に相談して	25	4.2
7 自分自身が過去に使用した経験がある製品やブランド名で選ぶ	72	12
8 価格	35	5.8
9 その他(具体的に入力してください)	115	19.2
10 市販薬は購入しない	0	0
非該当	0	0

健康トラブルの対処や市販薬の選択方法について③

参考

Q5 あなたが薬局やドラッグストアで市販薬を購入するとき、薬を選択するのに、このような情報があれば選びやすくなるという情報がありましたら、具体的にお教えてください。(SA)

	回答数	%
全体	600	100
1 今の情報で十分であり、ほかに必要な情報はない。	252	42
2 今の情報では不十分であるが、必要な情報について具体的に思いつかない。	333	55.5
3 もっと情報が必要である(具体的に <input type="text"/>)	15	2.5
非該当	0	0

Q6 体調が悪くなった際にどのような対処をすればよいか調べられ、市販薬を使う際には自分に合ったものが検索できる、製薬会社が共同で運営するサイトがあれば、あなたは利用しますか。(SA)

	回答数	%
全体	600	100
1 積極的に利用し、対処法を決めるため情報源にしたい	200	33.3
2 専門家のアドバイスを受けるが、参考の情報として使用したい。	226	37.7
3 現在参考にしている情報をこれからも利用したい。	170	28.3
4 その他(具体的に <input type="text"/>)	4	0.7
非該当	0	0

OTC薬に関する情報提供ポータル構築の検討

* メリットだけでなくリスクも含めた情報提供

- ・ OTC薬検索システム→製品情報、使用上の注意解説
- ・ 受診or OTCを判断するためのトリアージ、セルフチェックシート
- ・ OTC薬の使い方、副作用、飲み合わせなど関連情報
- ・ 薬剤師、登録販売者が登録サポーターとして関与、教育ツールとして
- ・ ヘルスリテラシーのレベルチェック、学習の場

成分コードなどOTC薬のデータベース整備

将来的には、さまざまなアプリケーションが連携できるプラットフォームを確立

電子版お薬手帳との連携・・・医療用医薬品と一緒に服薬管理
医療用医薬品と同一成分等のアラート
濫用医薬品のアラート
スイッチOTC製品の紹介

セルフメディケーション税制の申告・・・購買情報記録、e-TAXと連携

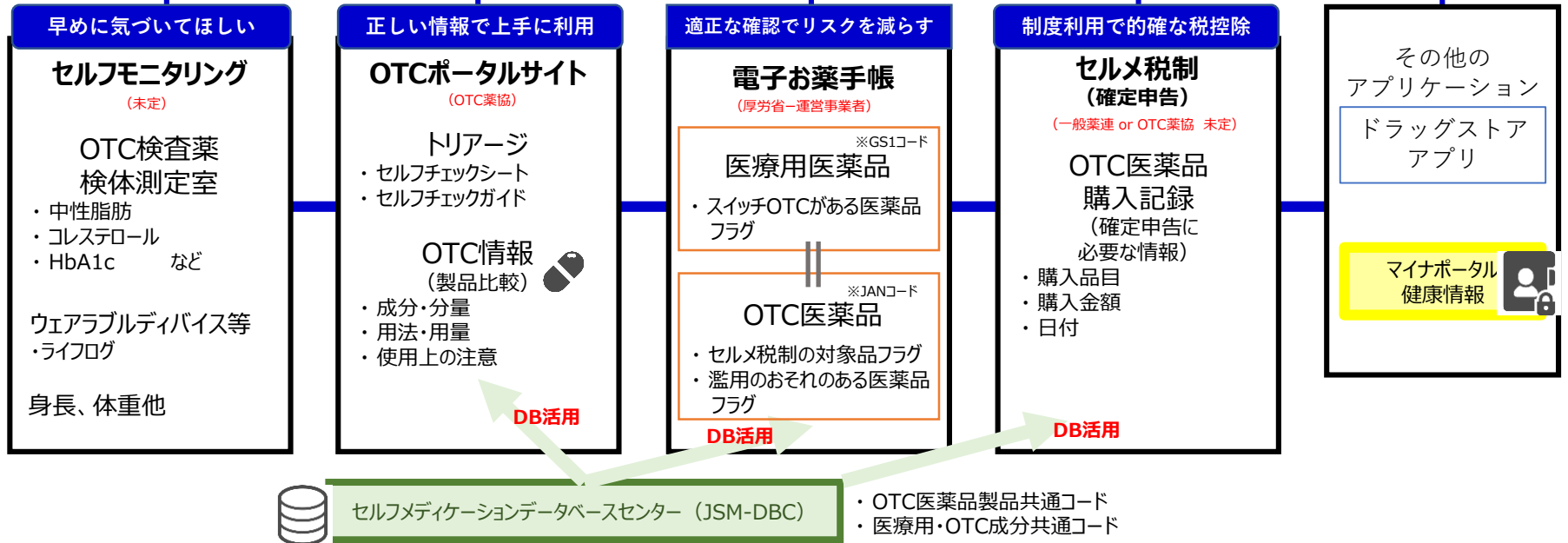


ヘルスケアセルフマネジメントプラットフォーム（仮称）のイメージ（構想段階）

OTC薬の適正な活用による健康増進へ

正しい選択のサポート、適切な医師・薬剤師への相談

ヘルスケアセルフマネジメントプラットフォーム…相互連結の場



以上